

自己評価シート

たけのこの里

1、園の教育目標

当学園では教育・保育理念として、『一人ひとりを見つめる保育の実現』『主体的に生きる力を育む保育の実現』『仲良しの心・思いやりの心を育てる』を掲げています。また教育目標として、本園でめざす幼児像は次の4項目になります。

- 1、丈夫な子ども
- 2、素直な子ども
- 3、進んで取り組む子ども
- 4、心豊かな子ども

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した自己評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教職員が自ら客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
保育課程の精神を踏まえ、園の教育理念・教育方針にしたがい編成している。	自園における保育課程の編成に参考になるよう、外部説明会や研修会に園長等が出席し、共通理解するように努めている。
教育要領、教育課程、保育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成している。	毎年指導計画に加筆、訂正を行い、子どもの実態に即した内容にするように努めている。生活様式の変化に即し、身体発達、言語発達等を細やかに保育に展開してゆく。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	保育士は日々の記録を参考に子どもの実態を把握し、週案及び日案の作成に反映させるようにしている。個別保育計画等必要に応じて作成し、関係機関との連携をとる。
月毎に各年限の成果と課題を報告する。	各年限で月や週の目標を定め、月毎に達成状況を報告し合うようにしている。その結果を翌期に反映させていくよう努めている。特に行事は、環境的な変更配慮し、詳細に計画し、実践、見直し、を行う。
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	一人一人の子どものよさを認め、複数の教職員の目により総合的な子どもの姿をしっかりと観察し、客観的に子どもを見る目を養うように努めている。
あそびを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	自分で工夫して遊び、それが発展して友だちと協力して遊べる環境を準備するようにしている。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行なう。	登園から降園までの一日の流れの中で、身に付けてほしい生活習慣の獲得を促している。衣服着脱、排泄、食事と睡眠と言った事柄は、家庭との連携を取りながら丁寧に進めた。

	手洗い、うがい、消毒指導の徹底。感染対策に配慮した保育環境の工夫をしながら、子どもへの発達や介助に努めた。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	学園全体研修を、年度の初め、夏期及び冬期においてを行った。 又、教育・保育的問題の度に園内研修を行い質の向上に努めている。
各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする。	各種研修会や研究会に参加し学んだことを資料にまとめ、教職員間において提供し、共有化を図るようにしている。 職員のキャリアアップ研修を通して、「やりがいと目標」の意識を持つ。
園だよりや合同研修会をとおして園の情報を発信していく。	園の教育・保育方針や取組を園だよりに記載し、積極的情報発信に取り組んでいく。又、ホームページ等も有効に活用する。
教育・保育目標や短期経営目標と連鎖した評価項目を作成し、目標・実行・評価・改善のサイクルを確立する。	PDCA サイクルを常に念頭におき、さらに充実した教育になるように努める。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

理 由
<p>全教職員が自己評価の主旨を十分に理解し、真摯に自己点検、自己評価、自己啓発に取り組んでいる様子が見られた。今後も客観的な目で、自らの教育や保育を振り返り、さらに充実した保育実践ができるように努力を積み重ねていきたい。</p> <p>「新しい生活様式」が定着し、子どもも職員にとってもどのような変化があるのかと模索もあるが、乳幼児期の愛着の基盤である時期を大切に考え、保育に取り組む姿勢をもつ職員たちである。</p> <p>中堅職員のリーダーシップと若手の職員のアイデア等を合わせながら、尚一層、園内のチームワークを高め、さらに技術の修得・維持への取り組みを行いたい。</p> <p>施設面では環境整備に力を入れ、子ども達が安心、安全に遊べる環境になるように努力しており、概ね目標を達成できた。</p>

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
情報公開の方法	現在ホームページや園だより、保護者がより知りたい情報を発信していく為、内容をより詳しく出来るように今年度から写真・動画配信サービスも活用している。 平成 30 年度より、メールの配信システムを導入し、緊急時等の園情報を提供出来るようになった。個人情報の観点に配慮しながらも、昨今のコロナの対応では、とても必要であった。今後も活用したい。
自己点検、自己評価	基本の項目は最低限の点検課題として挙げている。各教職員が自己課題を見付け、その課題に対して自己研鑽に取り組むよう努めている。全教職員が一層キャリアアップしてゆけるよう、園全体の事項を共有してゆく
指導計画の編成	指導計画を作成する際に、園を取り巻く環境や子供の実態に即した新たな指導計画の編成にさらに取り組んでいく。